

## 第2期能代市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に向けた 各団体等の取組状況や意見・提言について

### 団体等名 能代地区高校校長会

各団体等における人口減少に係る課題やその取組状況、また、今後の施策・事業に関する意見・提言等を下記に記入のうえ、11月12日（火）までに総合政策課へFAX・電子メール等で送付願います（様式は問いません）。いただいた内容は、次回の総合戦略会議（11月下旬）の資料として取りまとめさせていただきます。

必要に応じて、内容の確認等のため、個別にご相談させていただく場合がありますので、ご承知おきください。

#### 【記載にあたっての視点】

- ①各団体等が活動や業務の中で把握している人口減少に係る課題や取組の状況  
(情報の共有)
- ②他団体等との連携により更なる効果が見込める取組
- ③市や各団体等が今後取組を強化または新たに取組むべき施策・事業

#### ①各団体等が活動や業務の中で把握している人口減少に係る課題や取組の状況

能代地区の高校においては、各校において課題研究発表を行っているが、ベースは工業・農業・商業といった専門学科における課題研究がメインである。その中で普通高校の能代高校では学校独自の取組として「New Will Project（探究活動）」を実施して3年目となる。その中の1年生の取組は「グループ研究」である。強く「地域」を意識した5領域が設定されているが、高校生の視点から能代山本地域が抱える今日的な課題と未来に向けた戦略を提言しようというものである。令和4年度から全面実施される新学習指導要領の「総合的な探究の時間」を先取りする取組でもある。各校においても今後は高校生による地域をフィールドとする探究活動が活発に行われると思う。

#### ②他団体等との連携により更なる効果が見込める取組

能代高校の「New Will Project（探究活動）」は「外部機関」との協力関係を構築していく中で、実現可能で持続可能な取組を提言できるかもしれない。社会人としても主体的な学びと様々な提言ができるよう経験を積ませてやりたいので、生徒たちに学校以外での発表の場を設けさせたい。地域の協力も得ながら、このプロジェクトを深化させたいと考えている。

次回の総合戦略会議（11月下旬）においては、情報共有を図るため、各委員の皆様からいただいた上記の意見・提言等について、希望により発表していただくことを考えております。当日の発表の意向を下記に記載願います。

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. 当日の発表を希望する | 2. 当日の発表は希望しない |
|---------------|----------------|

# New Will Project

## 地域課題解決型探究活動 キャリアデザイン型探究活動

### 能代高校における 「探究活動」の特徴

学びのフィールドを積極的に「外」へ広げます。その際に障害となる距離や時間をICTで補います。外部の助言者・協力者、地域・社会によって「磨かれ」成長できる体制を意識しています。また、ICTを活用した相互評価や即時評価によって、「学びの集団」づくりを進めています。良質な「振り返り」の即時の全体化で、よりよい効果が期待されます。

### 「探究活動」の今後

日々の活動記録や学びの成果をデジタル化して蓄積することによって、「振り返り」の頻度を高めます。生徒は、いつでもどこでも、自分の高校生活を振り返ることが出来るようになります。良質な「振り返り」を実現するためにも、良質な「対話」を日常的に意識します。「語る」「語り合う」「対話」の充実により生徒自身が「主体的学習者」へと成長することをめざします。



即時性の高い  
相互評価による  
質の高い  
「振り返り」



ループリック  
利用による  
客観的評価の  
「見える化」



物理的障害を  
乗り越える  
ICTツールの  
可能性



ICT活用  
によって進む  
「振り返り」の  
日常化



### 「探究活動」を振り返って 優秀発表会をふまえた生徒の声

どの班も様々な視点から秋田や能代をみつめていて参考になった。今までは、地域の高齢化や少子高齢化といった視点でしか地元について考えたことがなかったので、新たな視点で能代を見つめ直してとてもいい機会だった。これからいろいろなこと興味を持って生活して、2年生での個人探究に活かしていきたいと思った。

今年度の探究活動はせっかくの機会をうまく利用出来なかった。優秀発表会をみて自分の好きなことを探究するのは何も苦ではないしどんどんアイデアが浮かぶものなんだなと思った。最近自分にとってのそのようなテーマが何なのかがはっきりしてきたので今後の学びに生かしたいです。

活動を通して改めて能代の魅力に気づくことが出来た。これからはその魅力を発信する側として、生活していきたいと思う。

どの人も探究のテーマが自分の夢と直接的に関係していて、説得力があった。だから今後は自分の夢や目標を明確にして、努力したいと思うきっかけになった。

代表者の人たちはたくさんの時間をかけて調査をし、考え、まとめられた素晴らしい探究でした。自分の探究はそこまで時間をかけずにやりました。部活や勉強などで時間が限られているなか、集中して真面目に取り組んだからこそ、あの素晴らしい発表ができるのだと思います。これから大学進学に向けて勉強をしていかななくてはならないなか、限られた時間に集中して真面目に取り組んで良い結果に結びつけられればと思います。

どの班も、調査・研究の基本（現状把握、課題発見、テーマ（仮説）設定、情報収集、検証、考察）に沿った取り組みができていて、高校生として高いレベルでの取り組みを実施されていると感じました。限られた時間の中で、資料・情報の収集や文献調査、インタビュー等の現地調査を行うなど、多くの活動を丁寧に行っている印象です。

自分の生まれ育った地域を見つめ直す良い機会になっていると思います。進学や就職でこの地域を離れても、この地域を忘れないで応援してくれる人になってほしいと思います。

勉強でも部活でも、工夫し、考えることの必要性を改めて感じた。目標設定だけでなく、その目標の実現のための自分なりの考えを持つことや行動に移すことが進路実現に向けての第一ステップだと思った。

高校生が自分の住んでいる街のことを良く知ることができるとともに、市が若者に伝えたいこと、知ってほしいことを直接伝えられ、若者の興味関心も知ることのできる良い機会となっていて、大変ありがたいと思っています。

### 「探究活動」についての 外部アドバイザーの声

主体的学びが身につく効果的な手法であると思います。課題発見力や探究心、問題解決力、プレゼン能力のいずれにおいても、今後の社会を生き抜く重要な力が育まれると実感いたしました。与えられた学びから意志ある学びへの転換が意識された実践ではないでしょうか。



### 「育成をめざす生徒像」

高い志を掲げ、自らの目標達成やよりよい社会の実現に向けて、主体性をもって果敢に未来を切り拓く生徒

- 〈本校生であることに誇りを持ち、規律正しく活気ある学校生活を実践する生徒〉
- 〈「確かな学力」や「実践的な力」の獲得をめざし、主体的に学びに向かう生徒〉
- 〈豊かな人間関係を構築し、他者を尊重しながらともに学び行動できる生徒〉
- 〈自己の目標実現のため、心と体を鍛えつつ、不断の努力を継続できる生徒〉
- 〈探究活動を中心に市民性や社会貢献の意識を高めつつ、次代を担う志を持った生徒〉



# 探究活動 Planning

- 1年次：地域課題解決型（グループ探究）
- 2年次：キャリアデザイン型（個人探究）
- 3年次：自己進路実現型（志望理由書等）

地域の中心校として、「地域への思い・愛情」「これからの社会で必要とされる資質・能力」を育む取り組みであるべきと考えました。1年次の経験をふまえ、2年次では進路に関わる個人探究を主体的に進め、3年次での自己の進路実現に繋いでいきます。1年次は「ローカル」な視点からの探究ですが、「リージョナル」「グローバル」な視点への発展を意識して探究を深化させていきます。

**強く「地域」を意識した5領域設定**  
秋田県や能代市の抱える今日的な課題と未来に向けての戦略に沿ったものとししました。

<b>Green</b> エネルギー 環境問題 国土保全 ゾオパーク	<b>Tourism</b> 観光 文化振興 シティセールス 地域ブランド化
<b>Agri</b> 農林水産業 地域特産品 6次産業化 後継者育成	<b>Life</b> まちづくり 移住定住 防災減災 CCRC
<b>Health</b> 医療・福祉 健康寿命 高齢社会 スポーツ振興	

**テーマ設定**  
夏休み期間も利用して、探究テーマの設定やフィールドワークの計画を相談します。

**ループリック説明会**  
探究活動の目的の再確認と評価法であるループリックの説明を行います。評価の観点やポイントを理解することで活動の質を高めます。



**6月 探究活動ガイダンス 領域説明ガイダンス**  
探究活動の概要の説明を行います。なぜ「探究」なのか、なぜ「地域課題」なのか。その後、各領域の担当教員から簡単なレクチャーがあります。ここから、生徒の「探究」がスタートします。



**7月 探究活動出前講座**  
5つの領域について、生徒は希望領域毎に分かれ、大学教員や市役所職員による講話を聞きます。地域の抱える課題について、それぞれ学術的・行政的観点からの講話をしていただきます。



**8月 フィールドワーク 全員・終日**  
全員が1日フィールドワークを行います。各班、必ず複数箇所への訪問を義務づけています。Classi上で成果の共有や安否確認を行います。訪問のアポ取りも生徒自身が行います。



**9月 探究活動本格化 プレゼンデータ作成**  
フィールドワークが終わると、いよいよ探究活動が本格化します。仮説を立てて、課題解決への話し合いが深まっています。また、「情報」の授業でもプレゼンファイルの作成や探究に関わる指導について連携を進めています。

**「多様性」を意識したグループ編成**  
希望領域と関心のあるキーワードに関するアンケートを実施。それをもとに班編成を行います。班編成の際には同一属性の生徒が分かれるよう配慮しています。



**10月 中間発表会**  
領域毎に別れて、これまでの探究の経過を発表します。大学教員や市役所職員の方にアドバイザーとして参加していただき、的確な指導助言をいただきます。同時に、生徒同士でもループリックを用いた相互評価を行い、Classiの「アンケート機能」を活用して、即時に「振り返り」を行います。



**12月 成果発表会 相互評価・即時評価**  
半年間進めてきた探究活動の最終発表会です。多くの外部アドバイザーのみならずにも聴いていただけます。どの班も中間発表からの成長の跡が見られます。発表に対する鋭い質問も飛び交います。成果発表会でもClassiを用いた相互評価・即時評価を行いました。生徒たちは自分のスマートフォンでアンケートに回答します。全ての発表が終わってからは、各自がこれまでの探究の成果を「振り返り」ます。他者からの評価と自己評価、そして外部アドバイザーによる評価を比較することで、自己理解が深まります。



**1月 1・2年生合同 優秀発表会**  
1年生からは各領域から選出された5つのグループが、2年生からは各クラス代表の6名が、1・2年生全員の前で発表を行います。外部アドバイザーの方だけでなく、保護者や地域の方々にも来校いただきました。

**調査・探究の深化**  
外部アドバイザーの指導助言、生徒からの質問や相互評価の結果や意見を踏まえ、これまでの探究を振り返り、深化をはかります。ここでどれくらい「主体的」に活動できるかが最終発表の質を左右します。独自で追加のフィールドワークやアンケートなどを実施したグループもありました。できれば全てのグループが「外」に出て欲しいと考えています。

**ICTによる外部からの助言**  
Classiの「校内グループ」機能を活用して定期的に外部アドバイザーから指導していただけます。距離や時間の制約を乗り越えたコミュニケーションが可能です。

**「学び方の学び」**  
「自分がやりたいテーマではなかった」そんな声が聞かれることがあります。グループでの活動ですので、そういう思いも理解できます。でも、2年次は「個人探究」です。思い切り自分の興味関心を探究してください。情報の集め方、探究の進め方、提言を想像する力、他者との協働、外部との関わり方、1年生では、「学び方を学ぶ」のです。

**最終的な自己評価**  
優秀者の発表をふまえて、最終的な「振り返り」を行います。発表会の度に、「他者評価」「自己評価」を繰り返していきます。そこに「外部アドバイザー」からの厳しい評価も加わることで、自分の成長や課題を実感しやすくなっています。

## 2年生 [個人探究]



1年次の経験をふまえ、2年次では、自分の進路目標に関連したテーマを設定した「個人探究」を行います。本校では、2年生全員がインターンシップを実施しています。本校におけるインターンシップは、単に就業体験にとどまらず、個人探究を深化させるためのフィールドワークのような意味も持っています。訪問先には、事前にその分野・業種に関する質問状を事前に送付します。これは、目的・課題意識をもって活動してもらいたいためです。また、2年次での探究では、「ローカル」な視点はもちろん持ちつつも、そこから「リージョナル」「グローバル」な視点への発展を意識します。社会に対する多角的な視点を養成しつつ、自己の進路実現に向けてのモチベーションを高める活動となります。発表はポスターセッション形式になりますが、優秀者は1月にプレゼン形式での全体発表があります。



- 3月 個人探究
- 4月 インターンシップ説明会
- 4月 探究テーマ決定
- 6月 インターンシップ先決定
- 7月 事前質問送付  
インターンシップ  
(全員・2日間)
- 9月 中間発表会
- 11月 成果発表会
- 1月 優秀発表会 (代表6名)

## 探究活動実施に向けて

- 「持続可能」な計画であること
- 可能な限り「総合的な学習の時間」内での完結
- 「外部機関」との協力関係の構築
- 「評価」や「振り返り」の効果的実施

校内、それも教員の指導だけで 生徒同士の学び合い！  
完結させない体制の構築！ 外部の方の温かい指導！

## ICT(Classi)の活用

### Classiとは

新時代の教育や学校を取り巻く様々な環境の変化に対応した、教育現場を支援するICTプラットフォームです。本校では「探究活動」での活用を中心として、「学習記録」による日々の生活の自己管理や、掲示板・連絡手段としての「校内グループ」、各種「アンケート」にも利用しています。授業での活用例も増えてきました。



## 「探究活動」でのClassi活用① 【校内グループ】

- 「校内グループ」は、日々の活動の「場」として活用します。「総合的な学習の時間」以外でも自由度の高いコミュニケーションが可能となり、また、同時に活動履歴の可視化、データ化も行われます。
- 外部との連絡ツールとしても有効な手段となります。外部アドバイザーにもグループに所属していただき、生徒の活動履歴等を確認していただきながら、定期的に指導助言をお願いしています。



## 「探究活動」でのClassi活用② 【アンケート・ポートフォリオ】

- ループリックを用いた、即時の相互評価によって、すぐに「振り返り」が行えます。また、それだけではなく、その場で「振り返り」の成果を全体で共有することができます。
- 「アンケート」の結果は「ポートフォリオ」として蓄積されます。活動履歴や成長の軌跡が、データとして可視化、蓄積されていきます。



## 令和元年度 「グループ探究」 探究テーマ

班	探究テーマ	時間	場所	担当
A1	六次産業を行うにあたってすると良い事	-		
A2	6次産業の極意	-		
A3	農業で働く人を増やすために、自分たちに考えられること	-		
A4	農業の労働環境の実態	-		
A5	白神ねぎの第6次産業化について	-		
A6	高付加価値化について	-		
A7	農業の高齢化	-		
A8	特産物であるメロンをよく知り、6次産業化とつながることはできないか	-		
A9	農業の効率化	-		
G1	鳥獣と人間が共存するためには	-		
G2	ジオパークの知名度を高めるために自分達で考える	-		
G3	能代に火力は必要か？	-		
G4	発電時に発生する二酸化炭素を削減するために、私たちはどのような事を意識して生活すべきか	-		
G5	能代の環境を保つために、再生可能エネルギーにおける課題を解決し、発達、普及させるにはどうしたらいいか考える	-		
G6	風の松原の現状を把握し、今後私たちがとるべき行動について考える	-		
G7	風力発電をより生かすためにはどうしたらいいのだろうか	-		
G8	カラスの被害について	-		
G9	洋上風力発電は本当に必要なのだろうか	-		
H1	私たちの健康と塩分摂取量の関係	-		
H2	健康寿命を延ばし能代の目指す社会へ	-		
H3	高齢社会における介護施設の役割	-		
H4	能代市の運動状況と課題、解決策	-		
H5	スポーツの街能代を目指して	-		
H6	年齢別スポーツ発展の工夫	-		
H7	スポーツの楽しさとは？	-		
H8	介護職に対するマイナスイメージを減らす	-		
H9	秋田県のガン予防に向けて	-		
H10	医療環境の偏りと医師看護師の減少	-		
L1	高齢者にとって住みやすい街	-		
L2	災害時の行動	-		
L3	地域の人たちに災害対策の意識を高めてもらう	-		
L4	商店街の過去今未来を探る	-		
L5	私達が考える町づくり	-		
L6	人口減少を抑制するためには能代をどのように発展させればいいのか考える。	-		
L7	能代市の人口推移の背景と対策	-		
L8	移住・定住を通じた能代市のまちづくり	-		
L9	migrant increase	-		
T1	能代のインバウンド観光の活性化	-		
T2	リゾートしらかみツアー	-		
T3	高校生商店街	-		
T4	県北の観光資源について	-		
T5	外国人観光客の効果的誘致方法	-		
T6	たくさんの方がお金を使ってくれますように…	-		
T7	草と虫を広げるために ~in白神山地~	-		
T8	能代の食、食文化を用いて6次産業の活性化を図る	-		
T9	能代の良さを日本中に発信する	-		